

◀目次▶P1:新年の挨拶 P2:学術大会報告 P4:特集 復興支援バスツアー P8:各局のお知らせ P10:参加報告

## 新年の挨拶

会長 内山 量史

新年明けましておめでとうございます。2014年が会員の皆様にとって輝かしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は東京オリンピックが決定したり、多くの流行語が大賞を受賞したり、また、景気の良さが報道されるなど日本が元気を取り戻した一年だったと思います。

当会の活動においても学術活動を中心に職能活動や広報事業など充実した活動が展開されました。外部講師を招いての学術講演会に加え症例検討会、新人を対象とした新卒者研修会は当会独自の学術活動であり、会員個人の資質の向上や他施設との意見交換の場の提供はもちろん人材育成という大きなテーマを担って企画・運営されております。職能活動は山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会との連携を中心に県や関連団体との事業への参加など年々その範囲は拡大しております。「第7回がんフォーラム」へのパネラーとしての出席やブースでの広報活動、政治団体への要望書の提出や要望事案での県立図書館との協議などはこれまでに例のない活動でした。東日本大震災の復興支援では、これまで義援金の募金やチャリティーバザーの開催を年に1回実施していましたが、昨年は理事と若い会員を中心とした25名の有志で被災地（福島県：南相馬市、いわき市）を訪ね被災口話を始め復興に向けた現状を見聞し、我々に何が出来るのか考えるツアーを実施しました（10月20日～21日）。郡山では福島県言語聴覚士会との交流会も開催していただきました。この復興支援ツアーの様子は参加できなかった会員には動画や写真を用いて報告し、参加者の感想は今号のニュースにてお伝えいたします。この震災を風化させることなく、当会はこれからも東日本大震災による復興を応援していきます。

今年の注目のべき事業として一般社団法人への移行があります。今年度の総会にて法人化への移行について承諾を得られてから、法人化ワーキンググループを組織し法人化に向けた作業を行ってきました。その経過はホームページにて掲載し会員への情報開示にも努めてきました。法人化に必要な定款は公証役場の指導を経て、4月に登記が出来る準備が整いつつあります。4月には任意団体の当会を解散させ、速やかに一般社団法人山梨県言語聴覚士会の設立総会を開催いたします。また祝賀会の準備も計画されております。責任ある新たな職能団体としての旅立ちを多くの会員に立ち会っていただきたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。また、3士会合同事業として12月に「第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会」が開催されます。他県では例のないこの学術大会の成功に向けて既に実行委員会が開催されております。準備段階からスケールの大きさに圧倒されますが、当会としても必要数の実行委員を組織しこの学術大会の企画・準備に携わっていきます。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

今年は上述したように新たな職能団体として大変革を遂げる年でもあります。「物事が「うま、くいく」「幸運が駆け込んでくる」などと言われる縁起の良い「午」にちなんで万事滞りなく事が進むよう理事会は努力をしていきます。これからの当会の活動を確固たるものにするためにも、会員の皆様のご協力、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。新たな歴史を共に作っていきましょう。



# 山梨県言語聴覚士会 第6回学術大会を終えて

第6回学術大会 大会長 河西 祐子

平成25年11月10日、山梨英和大学におきまして、山梨県言語聴覚士会第6回学術大会を開催させていただきました。おかげさまで86名という大勢のご参加をいただき、大変充実した大会となりました。ご参加くださった方々に心より感謝申し上げます。

今大会は、「再考!!言語聴覚療法の専門性と可能性～制度と現状をふまえて～」をテーマに掲げ、一般演題8演題の他、山梨県福祉保



健部長寿社会課の貫井信幸先生による「高齢者を取り巻く現状や今後について」、介護老人保健施設マロニエ苑の黒羽真美先生による「生活の再構築を支援する言語聴覚療法」の2つの特別講演を企画いたしました。

一般演題では、日頃より問題意識をもって臨床に取り組みられた成果を発表していただき、活発な質疑応答を得て、学びの多い時間となりました。

特別講演の貫井先生は、地域包括ケアシステムには地域リハビリテーションが不可欠であること、患者様の地域での生活を知り治療にあたることの大切さや言語聴覚士として繋がりを作っていくことの必要性に言及されました。黒羽先生は、維持期の言語聴覚療法の実際や退院後の患者様の心理状態・生活機能の変化について症例を交え説明され、誤嚥性肺炎の予防と認知症対策における言語聴覚療法の可能性も示していただきました。両先生が共に「住み慣れた地域でのその人らしい生活」を支えるために情熱をもって働いておられることに感銘を受け、リハビリテーションが急性期から回復期、維持期、さらに介護期、終末期へと滞ることなく、効率的で継続的に提供される必要性を再認識致しました。私達言語聴覚士の専門性を確認し、それぞれの立場でなすべきこと、今後進むべき方向性について貴重なご提言をいただいたと思っております。

アンケートの中で、講演の内容が非常に豊富で、詳しく学びたいという声をいただきました。特別講演のスライドにつきましては、先生方のご厚意により、後日、記録集としてお届けする予定です。一般演題の発表と合わせて、今後の自己研鑽にご活用いただければ幸いです。

末筆ながら、特別講演をお引き受けいただいた先生方、ご後援頂いた諸団体、発表者の方々、大会の質の向上を目指してご尽力いただきました査読委員、実行委員の皆様へ深く感謝いたします。

今大会が、自身の臨床の振り返りに繋がり、言語聴覚療法を必要としているすべての方々の支援に結びつきますことを祈念し、お礼のご挨拶とさせていただきます。

## 山梨県言語聴覚士会 第6回学術大会に参加して

### 発表者

甲府城南病院 大石 千佳子

今大会では、発話面に重度の障害を呈した失語症例の訓練方法をテーマに発表しました。また今回は、実行委員の企画部の仕事と同時進行で発表の準備を進めていきましたが、実行委員の皆様との連携や査読委員の先生のご助言、職場のスタッフの協力が大きな支えとなり、発表に臨むことが出来たことに深く感謝しております。発表は不慣れなこともあり、スライドの呈示の仕方等で内容をわかりやすく伝達できなかったことが反省点として残りますが、発表を通し皆様と症例について意見交換をしていく中で、多くの新たな視点に気付くことができ、大変貴重な経験となりました。また、発表するにあたり、日々の臨床で患者様の変化を細かく評価すること、そこから訓練を振り返り訓練効果を分析することの重要性を改めて実感しました。今回の経験を活かし、自身の臨床を客観的に捉え、そこで得られたことを患者様に還元できるよう努めていきたいと思っております。

### 参加者

国立病院機構甲府病院 栗原 拓朗

山梨県言語聴覚士会第6回学術大会に参加させて頂きました。大会テーマは「再考!!言語聴覚療法の専門性と可能性～制度と現状をふまえて～」でした。制度が変わっていく中で、言語聴覚士に対するニーズも変化していく事を学ばせていただき、その中で私達は何ができるのか。患者様が在宅、地域で生活していくためにどのような事が出来るのか等とても考えさせられる内容でした。また、今回は初めての参加でしたが、実行委員を務めさせて頂きました。今まで何度か他の学術大会には参加した事はありましたが、大会を運営する側としての参加は初めてでした。大会のテーマを決める事から始まり、様々な部署に分かれ綿密な話し合いの中で進行していく事は大変ではありましたが、他の先生方のお力を頂き、微力ながらも携わる事が出来たのは、とても良い経験となりました。

### 学術大会アンケート結果についてのお知らせ

第6回学術大会にて皆さんにご協力頂いたアンケートの結果につきましては、『山梨県言語聴覚士会ホームページ《学術大会》』に掲載を予定しておりますので、ご覧下さい。

特集

# 復興支援ツアー参加報告

～今回は福島県への1泊2日バスツアー参加者による感想を特集しました～

湯村温泉病院 赤池 三紀子

今回の福島復興支援ツアーは平成25年10月20、21日に一泊二日で行いました。メンバーは募集に応じていただいた14施設からの25名で、理事から10名と20～30代の15名でした。若い世代を優先したのは、次の世代を引き継ぐ彼らにこの経験を長く伝えていただきたいという目的でもありました。

福島県では、原発に近い海岸沿いにある南相馬市といわき市を見せていただきました。いたるところに津波の傷跡が残り、線を引いたようにそこから海側は家の土台しか残っていない光景でした。その残った家の基礎は間取りがはっきり見え、その時まで生活した姿が想像できるようでした。初日の強い雨の中、海岸から2km離れた野球場ではバスに同乗して口話を下さった70歳の男性に案内され、逃げてきた約50名が20mの津波に飲み込まれたバックネット裏に実際に立ちました。旗が掲げているポールに上った2人だけ助かったそうです。野球場の脇の墓碑には高齢者の名前が多くありました。とても寒く冷たい雨でしたが、びしょ濡れになった私たちにはあの日に思いを馳せることが出来た貴重な雨になりました。2日目のいわき市の久之浜商工会浜風商店街では、確かに力強い商店のおばさんたちがそこにいて、私たちのようにそこを訪れるものに笑顔で語ってくれました。先の口話のおじさんといい、ここの商店街の方々といい、津波で親族や住む家を失っても海を憎むことなく浜とともに生きようとする浜風の名前どおりの生き方で、あの日を境に変わってしまった時間を受け入れながらも立ち向かっている姿は脳裏に焼きついています。

このような体験とその夜の福島県言語聴覚士会との交流は、私たちの宝物となりました。県士会を担っていく参加した若い彼らが口々に語った感想や思いには、人としての成長を期待し、さらに言語聴覚士として今回の体験を目の前の患者さんに活かすことができると確信しました。福島県士会相澤会長から「日々の横のつながりが大切」と教わり、当県のつながりは必ず災害時にも役立つと言っていました。今後も県士会としてチャリティー活動などを通して被災地の皆様への思いを風化させないように継続した支援を目指します。参加者ならびに留守を預かってくださった皆様のご協力に改めて御礼申し上げます。



石和温泉病院 坂井 隆一



今回視察した南相馬市やいわき市では街中のガレキは撤去され、一見すると整備が整っているかのようでした。震災から2年で復興してきたのだと思った反面、海岸沿いになると景色は一変し、津波の爪痕が色濃く残されていました。流された集落跡はガレキの撤去のみでそのままになっていました。また、街中もよく見ると仮設住宅、整備中の建物、ガレキの解体所など津波の爪痕は消えていないと実感しました。2年が経過し震災報道も少なくなり記憶の風化が叫ばれる中、東北の現状を知り私達にできる支援を考え、実行して行く事が必要だと感じました。

一宮温泉病院 杉山 達也

今回の福島復興支援バスツアーに参加して、心からよかったと感じています。初めて訪れた福島で、「野球場」・「削れた山」・「仮設住宅」等を見ると、自然の脅威を感じ声を失いました。しかし、「浜風商店街」・「新築の家」等を見ると復興に向けた人間の力、笑顔の力を感じとることができました。「言語聴覚士として何ができるのか」という答えは簡単には出ませんが、今後それを考えていくことが、自分にとってのスタートだと思います。この経験を無駄にしないよう、笑顔を忘れず届けられるようにしていきたいと思っています。

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 安富 朋子

長時間の移動を終え、私が目にしたものは更地に木が一本立っている淋しい光景でした。野球場の破損した壁やガラス、底と風呂場しか残っていない無数の家、被災地の傷跡の深さを目の当たりにしました。「ここに人が生活していたのか・・・」それが最初の印象でした。しかし浜風商店街の方々、海岸沿いを歩く地元の方は「来てくれて嬉しい、ありがとう」との力強い言葉と握手、そして明るくはつらつとした笑顔で迎えてくれました。当時から現在までの話を聴き、人間の力強さ、築いてきた仲間同士の絆やその土地、自然への思い入れを感じました。人の支え合う力の大きさを実感するとともに、この貴重な体験をより多くの人に伝えたいと思いました。

健康科学大学リハクリニック 大和 さわか

このツアーで一番感じたことは、「百聞は一見にしかず」ということです。実際に見た光景は、想像をはるかに超える規模のものでした。海も見えないほど離れた場所に、20メートルの高さの津波がきたと聞いてもピンとこない部分がありましたが、ただただ広がる更地の広さに、思わず息を吞んでしまいました。また、その更地と道を挟んだ隣の土地では、何もなかったかのように人々が生活している光景があり、とても印象的でした。復興支援として、言語聴覚士に何が出来るかは難しさを感じますが、まずは、人として何が出来るかを考え、行動していかなければならないと改めて感じました。今回、ツアーに参加させて頂き、本当にありがとうございました。

津波でみんなもっていかれました。

甲州リハビリテーション病院 山下 皓司

今回、2日間の日程で福島への復興支援ツアーに参加させていただきました。1日目は南相馬市、2日目は久之浜へ伺いました。久之浜では、家の基礎だけになった住宅や片方だけになった靴、メガネなどそこで生活していた人がいた足跡だけが残り、津波の被害の甚大さを痛感させられました。その中で商店街の方々の力強い笑顔や語り手の方々の力強い言葉から復興に向けた今の被災地の様子も感じることができました。震災からもうすぐ3年経ちますが、ボランティアの数も年々減ってきているそうです。ただ未だに住む家が見つからず仮設住宅で暮らす人々や一向に復旧が進まず手つかずになったままの瓦礫の山が残っていること、同じ日本で起こったことを忘れてはいけないうい、伝えていかなければならないと思いました。



甲府城南病院 高野 裕輝

最近は震災の報道といえば原子力発電所関連のニュースばかりで、被災地の復興は進んでいるものと思っていました。しかし、実際に自分の目で被災した現地の様子を見てみて、地震や津波といった自然の恐ろしさや復興の難しさを実感しました。しかし、浜風商店街の方々や福島県士会の先生方とお話の中で、震災のあとも尚、故郷を愛し、現実に向き合っていく人間の強さやたくましさも同時に感じました。東日本大震災で起きたことを風化させないように、今回の経験をしっかりと心に刻み、周りの人に伝えていくとともに、日々の臨床においても、患者様が様々な困難と向かい合うときに、傍らで支え、希望に向かって共に歩める言語聴覚士になりたいと思いました。

国立病院機構甲府病院 小池 京子

当日、夜が明けていない雨天の中、バスは走り出しました。東北は遠いと考えていましたが、思ったよりも早く現地に到着できました。同じ日本にしながら、東北は遠い地域と思い込んでいたのでしょうか。もっと、早く自分の目で被災地を見に行くこともできたのにと考えさせられました。現地ではガレキが積み重なっていて、ここで生活されていた人がいたことを想像できない地域も残っていました。しかし、人々は笑顔で、一生懸命、前向きに生きていらっしゃいました。天災は、一瞬で命も生活も奪ってしまいますが、人間はその苦難を乗り越えられる力を持っていることを改めて感じました。今後も、色々な形で支援できればと強く思いました。ツアーに参加させていただきありがとうございました。

白根徳洲会病院 村上 薫

震災以来、いつか行かねばと思い続けていたもののチャンスのないまま、2年半の月日が経ってしまっていました。今回、赤池副会長のお声掛けと職場の上司・同僚の協力のおかげで、漸く福島訪問を実現することができました。あつという間の二日間でしたが、天候の影響も相まってか、初日に訪れた南相馬市の傷跡生々しい情景と翌日のいわき市久之浜商工会浜風商店街の皆さんの温かく力強い笑顔とのコントラストが、一層鮮烈に記憶に残っています。どんな逆境からでも、前に進もうとする力が人間にはあるのだということを、体感できたように思います。ツアーを企画いただいた理事の先生方、現地でお話を伺った被災者の方々に、心より感謝申し上げます。

山梨大学医学部附属病院 赤池 洋

今回、被災地の状況を知ると共にネットワークの重要性を実感しました。被災地では震災当初より孤立する病院や施設があり情報収集・交換が十分に行えない状況があったそうです。実際、山梨県でも地域により言語聴覚士の配置にばらつきがある状況で、被災地と同様なことが起こる可能性があります。私は今年度より当士会の災害対策委員として PT、OT 士会と共に災害対策に向けて取り組んでいます。災害対策の基礎作りとしてネットワークの構築を第一に考え、言語聴覚士として専門性を生かした災害活動が行える環境作りに努めていきたいと思っています。今回、被災地や福島県言語聴覚士会の方々から得た声を基に、災害対策に向けて真摯に取り組んでいきたいと思っています。



駅近くにある仮設住宅、家の土台だけが残った元住宅地、原型を留めていない自動車、波に削られた山など、初めて訪れた被災地はあまりに衝撃的でした。2年半の月日が流れてもまだまだ復興が進んでいない現状を知り、言葉を失いました。しかし、ガイドの神田さんや浜風商店街の皆様のお話や笑顔に逆に力づけられ、人の生きる力やたくましさを感じることもできました。私たち言語聴覚士に何ができるのか？被災地で見たこと、感じたことを周囲の人に伝えていくことが第一歩だと思っています。そして、今回の震災から学んだことを一つでも多く形にするためには、皆で力を合わせることに加え一人ずつの意識や資質の向上が必要だと感じました。このような貴重な体験をさせていただけたことに感謝申し上げます。

私は、今回の復興支援ツアーで震災後初めて福島を訪れました。南相馬市やいわき市の海岸沿いを訪れてまず感じたことは、「何もない」という事です。家も人の住んでいた形跡も何も残っておらず、思っていた以上に復興が進んでいない現状に驚きました。だんだんとテレビ等での報道が少なくなっている中で、私のように被災地の現状を知らない人は大勢いると思います。今回見て、聞いて、感じた事を伝えていく必要があると感じました。また、ツアーでは県土会員の皆様とも交流を深める事ができ、今回のツアーに参加することができて本当に良かったと改めて思いました。

東日本大震災後、復興や原発に関する情報を意識的に得るようにしていましたが、実際に現地に行く機会がありませんでした。そんな折、今回のツアーを企画していただき、すぐに申し込みました。マスメディアの情報だけでは分からない実態を目の当たりにした2日間でした。仮設商店街の電気屋さんのご主人が言った「6重苦ですよ」という言葉が忘れられません。ビデオを観させて頂きながらその悲惨さに涙が止まりませんでした。2年半という時が過ぎ、少しずつ生活を取り戻し、力強く生きている姿に人間の持つ底力を感じました。また支援から手を引こうとしている国の対応に怒りを覚えました。まだまだ復興はこれからです。私達は風化させることなく、自分達ができることでこれからも続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回のツアーにご尽力をいただきました内山会長、赤池副会長、中村副会長に心より感謝申し上げます。



# 各局・部からのお知らせ

## **事務局** 《局長》 河西 祐子 (春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

### 〈総務部〉

- \*平成25年度第5回理事会を12月10日(火)に開催しました。第6回理事会は、平成26年2月6日(木)に開催予定です。
- \*平成25年9月~12月の会員動向についてお知らせいたします。  
改姓(旧姓):大石(稲葉) 千佳子先生(甲府城南病院)  
退会:伊藤 邦彦先生(石和温泉病院) 小俣 芙美先生(甲府城南病院)  
長谷川 和子先生(山梨リハビリテーション病院)
- \*名簿記載事項に変更のあった方は、会員異動届に記入の上、事務局河西まで郵送、もしくはFAXでお送りください。届出用紙は県土会ホームページからダウンロードできます。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

## **社会局** 《局長》 赤池 三紀子 (湯村温泉病院)

### 〈職能部〉

- \*福島復興支援ツアーを10月20~21日に実施しました。このツアーの様子や参加者の感想が今号に特集されています。ぜひ、ご覧ください。
- \*山梨県病院協会PT・OT・ST部会研修会を10月23日山梨市民会館で開催しました。「高齢者呼吸器疾患の基礎」と題して大久保内科呼吸器科クリニック大久保修一院長からご講演いただきました。約300人の参加があり、駐車場が足りなくなるほど盛況でした。
- \*第3回山梨県訪問リハビリテーション実務者研修会が10月26~27日、クアハウス石和において開催されました。今年度の言語聴覚士の参加者は7名で微増しました。
- \*初めての社会局講演会が11月1日湯村温泉病院にて、メディケア・リハビリ取締役であり大阪府言語聴覚士会長である藤井達也先生を招いて「高齢者保健福祉施策から地域リハビリテーションを考える」と題して開催されました。起業という内容を本年度の言語聴覚士学会時より詳しく聞くことができました。
- \*平成26年1月9日(木)18時30分より福島復興支援ツアーの報告会と中北保健所多職種協働事業「想いのマップ」普及啓発研修会を山梨県立青少年センター第1研修室にて開催しました。

### 〈地域連携部〉

- \*小児領域「ことばの相談会」が12月1日甲府市立善誘館小学校で行なわれました。
- \*「第18回山梨県失語症者のつどい」が山梨市民会館で開催されました。昨年同様、長野失語症友の会「ぐるっと一座」を招き、ドキュメンタリー映画の上映など例年以上に言語聴覚士の活躍が目立つ楽しいひとときとなりました。ご協力をありがとうございました。

## **学術局** 《局長》 中村 晴江 (甲府城南病院)

### 〈学術部〉

- \*平成25年度第2回学術講演会  
日時:平成25年10月7日(月)18:30~ 会場:大木記念ホール  
テーマ:「コミュニケーションの視点から運動を診る」  
講師:長谷川 和子先生(山梨リハビリテーション病院)
- \*平成25年度第3回学術講演会 協会活動支援金対象  
日時:平成25年12月5日(木)18:30~ 会場:大木記念ホール  
テーマ:「臨床に活かすコーチング」  
講師:井原 くみ子先生(国際コーチ連盟認定プロフェッショナル認定コーチ)

\*日本語聴覚士協会 生涯学習プログラム基礎講座

日 時：平成26年1月14日(火) 18:30~

会 場：東公民館 2階 会議室

『言語聴覚療法の動向』 講師：武井 徳子先生(甲州リハビリテーション病院)

『臨床業務のあり方、進め方』 講師：佐々木 蘭子先生(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

## 〈研修部〉

### ①症例検討会

\*平成25年度 第4回症例検討会 スーパーバイザー：望月 真由美先生(石和共立病院)

日 時：平成25年10月17日(木) 18:30~

会 場：甲府市東公民館 大ホール

発表者：①又吉 梓先生(湯村温泉病院)

バイザー：中島 さなえ先生(石和共立病院)

②宮下 和也先生(笛吹中央病院)

バイザー：佐々木 蘭子先生(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

\*平成25年度 第5回症例検討会 スーパーバイザー：保坂 敏男先生(山梨リハビリテーション病院)

日 時：平成25年12月12日(木) 18:30~

会 場：甲府市東公民館 大ホール

発表者：①小林 加苗先生(竜王リハビリテーション病院)

バイザー：小口 陽子先生(山梨リハビリテーション病院)

②舟越 誠治先生(富士吉田市立病院)

バイザー：大和 さわか先生(健康科学大学リハビリテーションクリニック)

\*平成25年度 第6回症例検討会 スーパーバイザー：武井 徳子先生

日 時：平成26年2月20日(木) 18:30~

会 場：甲府市東公民館大ホール

発表者：①坂井 隆一先生(石和温泉病院)

バイザー：宮原 梨恵先生(甲州リハビリテーション病院)

②河村 有美先生(甲府城南病院)

バイザー：藤巻 千春先生(竜王リハビリテーション病院)

### ②小児領域

\*平成25年度第3回小児領域勉強会

日 時：平成25年10月5日(土)

会 場：甲府共立診療所

内 容：「こどもの言語のどこをみるか」

\*小児領域第4回勉強会

日 時：平成26年2月15日(土曜日)

会 場：甲府共立診療所

内 容：事例検討

## 〈教育部〉

\*平成25年度第4回新卒者研修会(最終回)

日 時：平成25年11月14日(木) 18:30~21:00

会 場：甲府市東公民館 地域集会室

内 容：第1部「構音障害の基礎」 長谷川 和子先生(山梨リハビリテーション病院)

第2部「対人コミュニケーションの基礎Ⅲ」 中村 晴江先生(甲府城南病院)

**広報局** 《局長》 武井 徳子 (甲州リハビリテーション病院)

## 〈会報編集部〉

\*山梨県言語聴覚士会 NEWS の企画・校正・発行をしました。

\*第28号 平成26年2月発行・第29号 平成26年6月発行予定

## 〈ホームページ管理部〉

\*山梨県言語聴覚士会ホームページの管理・運営を行っています。

学術講演会案内がトップ MENU に加わりました。ぜひ、ご活用下さい。

## 参加報告

### 山梨県言語聴覚士会 学術講演会 「コミュニケーションの視点から運動を診る」

石和温泉病院 林 正裕

今回の講演の中で、姿勢調節や頭頸部の触り方、咀嚼運動とヒラメ筋の活動の関わりを体験し、学ぶことができました。実際の体験を通して、日々の臨床場面を省みると、患者さんを診ていく際、言葉や表情の変化だけに気が留まっていたことに気づき、全身を診ていくことの重要性を強く感じました。患者さんに生じる微細な変化を見落とさないために、“見る”“聴く”“触る”など多角的な視点が必要で、その知識と技術を結びつけていくことが大切であると学びました。

今後、知識を臨床の場の技術として活かしていけるように、人一倍勉強し努力することが必要だと思います。努力を続けることは、患者さんに対する最低限のマナーであると心に刻み、日々精進していきたいです。

---

### 山梨県言語聴覚士会 社会局講演会 「高齢者保健福祉政策から地域リハビリテーションを考える」

山梨リハビリテーション病院 馬場 恵

平成 25 年 11 月 1 日に開催されました、社会局講演会に参加させていただきました。株式会社メディケア・リハビリ取締役でいらっしゃる藤井達也先生より、高齢者保健福祉政策の現状や今後の方向性、また、地域リハビリテーションについての話題や、言語聴覚士による起業について等、多くの大変貴重なお話を聞かせていただきました。

今後の社会保障制度改革は、「医療から介護へ、施設から在宅へ」という方向性を示しており、また、自宅で療養したいという在宅医療に関する国民のニーズが高まっているため、地域リハビリテーションは益々重視されているとのことでした。その中で、嚥下・コミュニケーション分野における言語聴覚士の役割は大きく、言語聴覚士の起業の可能性は大いにあるとのことでした。

今回の講演を聴講し、高齢化社会の中で地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割が拡大しつつある現在、社会保障制度の現状や今後の動向等について興味を持ち、知識を深めていくことが必要であると再認識しました。

## 「いきいき山梨ねんりんピック 2013」参加報告

石和温泉病院 山田 萌

平成 25 年 9 月 28 日（土）に小瀬スポーツ公園にて開催されました。当士会では、言語聴覚士をより多くの方々に知って頂くためにポスターの展示、かな拾い検査の体験を実施し、また嚥下食やトロミ剤の展示も合わせ行いました。家族がリハビリを受けたことがある方から在宅生活の様子について聞くことができました。ご家族様が話して下さいた在宅生活は、普段の臨床では経験出来ないことが多く自分自身の勉強になりました。今後は、言語聴覚士という職種を多くの方々に知って頂けるような活動をしていきたいです。



---

## 失語症者のつどい 参加報告

巨摩共立病院 木内 明子

今年のつどいでは長野失語症友の会「ぐるっと一座」の皆さんが参加され、劇とドキュメンタリー映画「言葉のきずな」の上映、山梨県内の各友の会の発表がありました。

「言葉のきずな」では、ぐるっと一座の活動を通して会員の方が社会参加の場を広げたエピソードが紹介されていました。社会で生活していく中で仲間がいて主体的に参加できる場の大切さを感じました。また、山梨県の各友の会の発表も会場と一体になった内容が多くとても楽しかったです。



今回、外来でリハビリにいらしている方も参加されました。感想を伺うと「いろいろな人の話が聞いて本当によかった。」と教えてくれました。地域には失語症の方がそれほど多くはありません。友の会や失語症者のつどいを通して、失語症の方が失語症の方と出会う場があることの大切さを感じました。

---

## 第三回子どもことばの相談会 参加報告

健康科学大学リハビリテーションクリニック 三井 真琴

平成 25 年 12 月 1 日（日）、善誘館小学校にて行われた『子どもことばの相談会』に参加させていただきました。お子さまのことばの悩みを気軽に相談できる場として開催されるこの会は、今年で 3 回目を迎えました。相談会では、臨床経験豊富な言語聴覚士と他施設に勤務している言語聴覚士がペアで相談を受けます。その為、子どもに対する視点や評価はもちろんのこと、親御さんとの関わり方や対応など多くのことを学ぶことが出来ました。また、この相談会を継続することで、地域の保健師や保育士などに周知してもらい、活用していただくとともに、言語聴覚士の存在をより多くの方に知っていただければと思いました。



## 編集後記

今回の県士会 NEWS は 10 月に行なわれた福島復興支援ツアーを特集しています。

実際に現地へ赴かれた先生方の意見を拝見し、被災地は生活再建の途上であり、大震災の余波は現在も続いていると改めて認識いたしました。

さて、今年の干支は午です。午は元々「忤」（ご：「つきあたる」「さからう」）であり、一年の真ん中を示す季節で草木の成長が終わり、衰えていく時期を象徴しています。干支の字義に反するようですが、被災された方々に対する生活再建への援助・支援を衰えさせないよう、福島のいまを知ろうとすること、伝え続けることを通して長期的な復興支援に携わる必要があると思いました。今回の県士会 NEWS を通して、再度復興支援について考えるきっかけになって頂ければ幸いです。

### <メンバー>

山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 山梨県言語聴覚士会

<発行人> 内山 量史

<編集> 山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集部

甲州リハビリテーション病院 武井 徳子・赤池 絢

石和温泉病院 高橋 正和・坂井 隆一

石和共立病院 小池 和樹

一宮温泉病院 杉山 達也・倉島 雪乃

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 外間 玲香

甲府共立診療所 宮里 なつき

甲府共立病院 山崎 結

甲府城南病院 廣瀬 由紀・脇坂 英寿

市立甲府病院 丸井 章子

湯村温泉病院 千田 亜也子

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内

〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府 436

TEL:0553(26)4126 FAX:0553(26)4366

<発行日>2014 年 2 月 1 日 第 28 刊